

# 令和6年度 学校関係者評価アンケート 結果に基づく考察および提言書

(令和7.2.1 第3回関係者評価委員会に基づく)

 世田谷区立京西小学校



令和7年2月8日

世田谷区立京西小学校  
学校関係者評価委員会



## 緒言

本委員会では、学校運営のさらなる向上を目的として、学校経営方針や学校の諸活動の参観等をもとに学校関係者評価アンケート項目の設問を検討し、令和6年11月に実施された学校関係者評価アンケートの結果（児童、保護者、地域）、並びに自己点検（教員）の結果等进行分析・考察した。

本評価は世田谷区が標準として掲げた評価項目を網羅的に取り上げるのではなく、重点目標に焦点を当て、その結果を以下に報告する。

各関係者には本校の学校運営の向上になるよう本評価提言書を活用願いたい。

## 京西小学校における令和6年度の重点目標

(A)やさしい京西の子ども

～思いやりをもち人の役に立ち、自己実現できる子～

(B)かしこい京西の子ども

～探究的な学びができる子・論理的な思考ができる子～

(C)げんきな京西の子ども

～健康で運動が大好きな子～



## <評価結果の概要>

アンケート回答数

- ◆児童 :592名（前年度 625名）  
20クラス（前年度21クラス）全クラス実施
- ◆保護者：回収率約68%（家庭数76%）（前年度 回収率\*44%）\*web回答
- ◆教員 : 31名（前年度27名）
- ◆地域 : 12名（前年度15名）

評価基準の表記について

◎：肯定評価80%以上 ○：肯定評価70%台 △：肯定評価60%台 ▲：それ以下

全体を通して各項目の回答でおおむね70%を超えるか、それに近い数値で推移しており高く評価できる。

学校運営上の問題もなく、充実した教育指導の向上、信頼と誇りをもてる学校づくりに取り組んでいる。



## <評価項目に沿った評価>

### 【1】令和6年度学校の重点目標について

#### (A)やさしい京西の子ども～思いやりをもち人の役に立ち、自己実現できる子～

【児童 1～4年生】	【児童 5～6年生】
<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 友達となかよくできる。(87%)</li><li>○ 自分のめあてを決めて、それに向かってがんばっている。(72%)</li><li>○ 自分にはいいところがある。(70%)</li><li>△ だれかのために、すすんで行動できる。(67%)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 友達となかよくできる。(95%)</li><li>○ 目標をもち、その実現に向けて努力している。(82%)</li><li>○ だれかのために、すすんで行動できる。(81%)</li><li>△ 自分にはいいところがある。(68%)</li></ul>
【保護者】	【教員】
<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 子どものよいところを認めている。(95%)</li><li>◎ 本校は、子どもの意欲を大切にしている。(83%)</li><li>○ 子どもは、誰かのためにすすんで行動できる。(76%)</li><li>○ 本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。(70%)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 私は児童の生活や授業、学校行事などを振り返る活動を通して、自分の良さに気付く指導をしている。(90%)</li><li>◎ 学校は、児童の人間関係力・社会形成能力を育成している。(100%)</li><li>◎ 児童はさくら組活動等の異学年交流で、思いやりの心をもち、仲良く遊ぶことができている。(94%)</li></ul>

例年と同様に「友達となかよくできる」との回答が全学年で高く、「自分にはいいところがあると思いますか」の否定的回答が少ない。集団の中で自分の力を発揮できている実感をもっている児童が多い。同様に5～6年生においては「だれかのためにすすんで行動できる」という回答が81%と高く、1～4年生も高学年になるにつれ上昇してほしいと願うところである。また教員は「児童はさくら組活動等の異学年交流で、思いやりの心をもち、仲良く遊ぶことができている。」と捉えており、さくら組活動を充実させてきた成果が児童の姿に見え始めていていると感じていることから、全校遠足・清掃活動含め引き続きこの活動を工夫を重ねながら継続していくことを期待する。



## (B)かしこい京西の子ども～探究的な学びができる子・論理的な思考ができる子～

<p>【児童 1～4年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 先生は、勉強が分からないときに、ていねいに教えてくれる。(82%)</li> <li>○ 勉強している内容はよく分かる。(76%)</li> <li>△ 本を読むことはすきである。(67%)</li> <li>△ 自分からすすんで勉強することができる。(65%)</li> </ul>	<p>【児童 5～6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(94%)</li> <li>◎ 先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。(90%)</li> <li>◎ 先生たちは、ていねいに指導してくれる。(88%)</li> <li>○ 本を読んでいる。(70%)</li> </ul>
<p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(87%)</li> <li>◎ 本校は、丁寧に指導している。(86%)</li> <li>◎ 本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。(84%)</li> <li>△ 子どもは読書している。(学習漫画や絵本も含む。)(62%)</li> </ul>	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 私は個に応じた指導を適切に行っている。(87%)</li> <li>◎ 私は分かりやすい授業を目指し、学習形態や指導方法を工夫している。(97%)</li> <li>◎ 私は授業内で「探究のプロセス」を意識し、児童が学習内容や学び方を習得できるようにしている。(81%)</li> </ul>

児童の回答からは、「勉強している内容がよく分かる（1～4年）」「先生は分からないことを丁寧に教えてくれる」項目の肯定的評価が高く、分からないことをそのままにしないようにしていることが分かる。5・6年生は「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」が90%と肯定的評価をしていることから、自分の考えを話し合い発表する機会が十分に与えられている、と感じていることがうかがえ、そのことは引き続き保護者にもよく伝わっているようだ。



## (C)げんきな京西の子ども～健康で運動が大好きな子～

<p>【児童 1～4年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 給食の時間が好きである。(80%)</li> <li>○ 自分からすすんで運動することができる。(70%)</li> </ul>	<p>【児童 5～6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 給食の時間が好きである。(81%)</li> <li>○ 自分からすすんで運動することができる。(74%)</li> </ul>
<p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。(95%)</li> <li>◎ 本校は、安全な学校づくりを進めている。(86%)</li> <li>○ 子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。(76%)</li> <li>△ 子どもは、すすんで運動している。(64%)</li> </ul>	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 学校は計画的・組織的に健康指導が行われている。(100%)</li> <li>◎ 学校は児童の健康、健全な生活について保護者と連携して指導にあたっている。(100%)</li> <li>◎ 安全点検、感染症対策などにより、安心・安全で健康的な環境・体制作りが図られている。(100%)</li> <li>◎ 学校は学校施設を有効に活用し、体力の向上を図っている。(100%)</li> </ul>

「自分からすすんで運動することができる」という回答が、1～4年生で前年よりも10ポイント減少したが、体育の授業がしっかり確保できていることと体力テストの結果は良くなっているので問題はないと思われる。アンケートでは保護者の76%が「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」と述べているものの「子どもは、すすんで運動している」との回答は64%にとどまっており、運動はしているがさほど自発的ではないという子どもの姿が浮かび上がる。

他方、学校としては体育朝会や集会で運動啓発を行い、めあてカードなどを作成し、楽しむ中にも正しい技能を身に付けられるように意識して指導している。こうした教員の努力と保護者との連携が、今後の児童の自主的な体力づくりにつながることを期待している。



## 【2】 児童対象アンケートについて

### 【児童 1～4年生】

- ◎ 友達となかよくできる (87%)
- ◎ 楽しみにしている行事がある (83%)
- ◎ 先生は、勉強が分からないときに、ていねいに教えてくれる (82%)
- ◎ 自分で頑張っていることを応援したり、助けてくれたりする人がいる (80%)

- 勉強している内容はよく分かる (76%)
- めあてに向かって頑張っている (72%)
- 自分にはいいところがある (70%)
- △ 本を読むことが好き (67%)
- △ 他の学年の人と話したり遊んだりしている (65%)
- △ だれかのために、すすんで行動できますか (67%)
- △ 勉強は楽しい (62%)

### 【児童 5～6年生】

- ◎ 友達となかよくできる (95%)
- ◎ 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある (94%)
- ◎ 注意されたことは理解できる (91%)
- ◎ 先生は、課題 (めあて) について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている (90%)
- ◎ 学校行事は楽しい (87%)

- 本を読んでいる (70%)
- △ 自分の生き方や将来の夢について考える授業がある (68%)
- △ 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある (62%)
- △ 自分の生き方や将来のことについて、家族や友達と話をしている (61%)
- ▲ 区立中学校に関する情報が提供されている (56%)

1～4年は昨年と比べ肯定評価の若干の減少はあるが、高学年の肯定評価がかなり上がっている。「友達となかよくできる」はいずれも評価が高く、よりよい人間関係が築けているのが分かる。また、「学校行事を楽しみにしている」児童は依然多く、行事の体験が豊かな心の育成につながっている。昨年課題であった自分の頑張りを応援する人がいると感じている児童が増え、学び舎の中学との交流の機会も増えていることから取り組みの改善がみられる。授業では協働的な学びに学校がよく取り組み、児童の思考を深めていることも分かる。

自分の生き方や将来のことについては、友達と話し合う機会を増やすとともに、キャリアパスポート等を上手に使って家庭とも連携して、低学年からキャリアについて育んでいってほしい。また、他学年交流やボランティア精神の向上については、特別活動を中心に今後を見据え、子どもたちのよさを価値付けしながら時間をかけて取り組まれることを期待している。



### 【3】 保護者対象アンケートについて

高評価	低評価	「わからない」が多かった項目
<p>◎本校は避難訓練やセーフティー教室などで子どもに安全に関する指導をしている。(95%)</p> <p>◎本校は学校公開や保護者会などで児童の様子が分かる。(95%)</p> <p>◎子どものよいところを認めている。(95%)</p> <p>◎学校行事は子どもにとって楽しい。(95%)</p> <p>◎学校行事は子どもにとって達成感がある。(94%)</p>	<p>▲「学び舎」の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている。(47%)</p> <p>△子どもは、家庭で自主的に学習をしている。(61%)</p> <p>△子どもは読書している。(学習漫画や絵本も含む。)(62%)</p> <p>△子どもは、すすんで運動している。(64%)</p> <p>△私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。(68%)</p>	<p>▲本校は子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。(肯定評価47%、わからない34%)</p> <p>△本校は、地域に情報を提供している。(肯定評価60%、わからない31%)</p> <p>△本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」の連携や交流活動が行われている。(肯定評価51%、わからない28%)</p>

例年同様に今年度も全体的に肯定評価が高く、中でも学校行事に対する評価が高い。9割以上の保護者が学校行事は「子どもにとって楽しい」「達成感がある」と回答している。コロナ禍の制限がなくなり、実際に参観し教員の指導姿勢や子どもの様子を感じ取れる機会が増えて、保護者の安心・信頼を得ているためと思われる。

「子どもの良いところを認めている」と感じている保護者が9割以上に対し、児童の肯定評価は約7割となっている。また「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」「子どもは読書している」「子どもはすすんで運動している」についての肯定評価は、いずれも保護者約6割に対し、児童は約7割となっており、保護者の期待や評価と子どもの頑張りとの差が気になる。学校で子どもは頑張っているが、放課後は塾や習い事などでも忙しい。学校と家庭の双方で、子どもの頑張りを受け止め、自己肯定感を高める働きかけをさらに工夫してほしい。

キャリア教育や学び舎については、見えにくい質問項目であり例年と同様の傾向ではあるが、否定的な回答ではないため今後の周知・取り組みに期待したい。





## 【4】 総括

一般社会と同様、学校での授業や行事がコロナ禍以前の環境に戻り、児童たちも学校内外で活動しやすい状況となっている。

児童アンケートで「友達となかよくできる」「学校行事が楽しい」などをはじめ、授業に関する項目においても昨年と同様に高い評価の回答が得られている。これまでと同様に「学校が自分達の居場所として安心できる場所」という学校への信頼感の表れであると思慮する。この安心した環境を与え続けてくれる教職員の皆さん、さらには保護者、地域の皆さんのご協力に感謝を申し上げたい。

ここ数年の課題である「学び舎」への理解はやや低いものの中学校との行き来には改善傾向がみられている。「学び舎」についての理解と協力にはもう一步の改善を望みたい。

また、運動関連の項目については、学年によって差がみられる。自発的、恒常的な運動、体力づくりがなされるような取り組みを望みたい。

昨年と同じ提言となるが、変化が速く情報氾濫の社会環境で、本校でも先生方の負担がさらに大きくなっている。職場環境の改善（負荷軽減）がなされていくことを引き続き望むものである。

保護者・地域の皆さんからは、学校公開や継続したお便り・ホームページ等の情報発信により学校経営等の理解度も維持されており、学校の見える化は評価されている。

毎年の課題でもある地域運営学校（学校運営委員会や三校合同の学び舎）については、引き続き理解を拡げる努力をされたい。

京西小は学校（教職員）と家庭（保護者）、地域（住民）の連携・協力が進んでいる学校である。この強みを活かしながら、子どもたちがさらに生き活きと学べる学校づくりを行えるように、それぞれの役割で連携を拡げていってほしいと願うものである。

以上

